

成果の説明書

(氏名) 大島 登志彦	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項 「・」で関連調査の出張日と内容を記す。 論文等の具体的研究成果は○番号で記す。</p> <p>[I]わが国の蚕糸業及び「富岡製糸場の見学者の動向と日本の蚕糸絹文化」に関わる研究 (一般財団法人 大日本蚕糸会から蚕糸絹科学文化支援事業の補助金を交付) ゼミナール所属の学生・院生とともに、世界遺産登録以降急増している富岡製糸場来場者に対して、その概要と動向及び蚕糸絹文化に関してアンケート及び聞き取り調査を行った。集計・分析を行った研究成果は、報告書(①)にまとめたほか、高木賢理事長の記念講演を含めた研究発表会(②)を開催して発表した。その発表会は、富岡市長をはじめ、自治体や交通運輸業界などの要職に就く方々など 100 人以上が参集して、盛大に行われた。 関連フィールド調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 20 日：白山市白峰地区の現役製糸工場を見学（加藤手織牛首つむぎ、西山産業） ・ 11 月中：富岡製糸場でゼミナール学生とともに 9 日間アンケート調査 ・ 12 月 20 日：岡谷蚕糸博物館へ見学調査 <p>①『富岡製糸場の見学者の動向と日本の蚕糸絹文化』報告書（2015 年 3 月、発刊） ②「富岡製糸場の見学者の動向と日本の蚕糸絹文化」研究発表会開催（3 月 18 日）</p> <p>[II]科学研究費のプロジェクトの分担研究（3 年間の 3 年目） 「超高齢化社会に向けた大都市縁辺地域のモビリティ満足度に関する地理学的研究」 駒澤大学土谷敏治教授主導の表記プロジェクトの分担研究の一環として、主に次の 3 要目に関して、調査と事例研究を行った。調査を重ねながら、従来からの研究を蓄積して成果報告し、新たな問題意識を認識した。</p> <p>(1) 地方の路線バスの関わる諸問題と近年の動向 地方の路線バスに関わる諸問題について、幾つかの事所ごとに、関東周辺の事例を含めて分析・考察を行ってきた (③)。特に、一般路線バス（距離制運賃で都市間輸送主体）とコミュニティバス（均一低廉運賃で市内輸送）の運行情報や運賃格差、高校生などの割高な路線バス運賃がバス離れを進行させた状況などに関しては、継続的に研究している（昨年度までのまとめは⑥）。</p> <p>(2) 北関東及甲信越・東北諸都市における従来からの公共交通の継続研究 今年度はとりわけ、高校生の通学需要における変遷や諸問題を、昨年度に続き、自治体や教育委員会の支援の具体的事例を研究した。また、デマンドバスについて、多種多様な方式などを提示しながら、長短所を考察した（下記[III]にも関連）。</p> <p>(3) 新幹線建設に伴う並行在来線の問題 北陸(金沢)・北海道(函館)新幹線の開業が迫る中で、並行在来線について、運営や利用者 の動向、JR の対応などに関わる具体的問題を、これまでの経緯や現況から考察した(④)。 関連フィールド調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 26 日：高島町のデマンドバス、七ヶ宿町・白石市のコミュニティバスの調査 ・ 6月 27 日：遠野市の早池峰バスと市営デマンドバス・大槌町コミュニティバスの調査 	

- ・9月9日：塩谷町と矢板市の路線バス事情と規制緩和に関わる課題の調査
- ・9月15日：深谷市のコミュニティバスとデマンドバスの調査
- ・9月26～27日：新庄市周辺町村における自治体バスの調査
- ・10月4日：頸城鉄道の保存車両と上越市内のバス事情調査
- ・1月14日：東吾妻町のスクールバス調査

③『交通新聞』の「交通評論」欄に連載

- ・2014年2月17日「路線バスの歴史と課題」、・2014年4月15日「コミュニティバス」
- ・2014年6月16日「デマンドバス」、・2014年8月18日「県境を走るバス」
- ・2014年10月20日「規制緩和の弊害」、・2014年12月22日「バスガイド 今昔」
- ・2014年3月9日「バスを運行する会社」

④鉄道史学会の第32回大会での研究発表(10月5日、東洋大学白山キャンパス)

「整備新幹線の建設と並行在来線の運営に関わるこれまでの経過と今後の課題」

[Ⅲ] 沼田市からの受託研究事業（地域政策研究センターを通して）

「沼田市域の路線バス案内」のチラシ作成業務、「路線バス・デマンド交通研究」

表題の2つの研究を受託させていただいた。前年度群馬県地域連携モデル事業の継続的研究を進める中で、6月に前者の「沼田市域の路線バス案内」を作成し(沼田市民に全戸配布されたほか各所で配布)、年度末には、後者の研究を主体とした報告書を作成し、沼田市に提出(⑤)した。今回特に研究・提案した内容は、以下の通りである。

- 1.利根中央病院の移転に伴う市街地一病院間に専用シャトルバスの運行
- 2.段丘下の沼田駅と段丘上面の市街地間の路線バス運行時間帯拡大の検討
- 3.小型車両で運行される閑散路線の枝路や末端のデマンド運行を提案(定時定路線型)
- 4.利根沼田地域全体の観光活性化に向けた提案
- 5.フィールド調査した市町村のバス運行事例を紹介して沼田市での活性化の一端を提案
関連フィールド調査

・[Ⅱ]項で記載したものを当調査でも活用して考察

・沼田市の職員と同行した視察調査

12月18日：深谷市のデマンドバス（主に現況と再編計画を研修）

2月17日：ときがわ町のデマンドバス(町の変遷とバス事情・運行会社の事情を研修)

⑤『沼田市における路線バスの利用促進とデマンド交通に関する提言』報告書

(2015年2月、高崎経済大学経済学部 大島登志彦)

[Ⅳ]日本交通政策研究会の研究プロジェクト

「ローカル地域の公共交通維持に向けた需要促進策の有効性に関する研究」に参画

交通地理学・交通経済学の分野を主体としたローカル路線バス研究者が集まって、各地の事例を情報交換しながら、各々の長短所を考察して、バス活性化に向けた提案を行ってきた(年度内3回、同会の本部で研究会開催下記⑥⑦は昨年・一昨年プロジェクトの報告)。関連したフィールド調査は1-[Ⅱ]項に記載

⑥「地方の路線バス運賃の諸問題に関わる事例考察」(2014年5月)

⑦「群馬県北毛地域における路線バスの概要と需要促進策の模索」(2015年1月)

[V]研究や教材の一環としての研究成果

数年間行ってきた授業研究やライフワークとして進めてきた温暖化の一端を考察した論文をまとめることができた。

⑧「地理教育における環境問題の取扱いと温暖化の実態」『環境政策の新展開』（勁草書房、2015年3月）pp.159-175

以上、○の論著は、『』に著名・「」で分担執筆題目を記載し、論文は「」に題目・『』に雑誌名を記載し、「」は単著である。出張は、学内研究費と上記Ⅰ～Ⅲの各枠組み予算で進めたが、執行時期・残額に応じて、各枠組みとは別の予算枠で出張したものもある。

2 その他の事項

[Ⅰ]大学院生の学会発表や論文指導と学生・院生を引率したゼミナール研修旅行

- ・大学院博士後期課程院生(石関正典君)に対する学会発表と査読論文投稿の指導
「上信電鉄の乗合バスの歴史的変遷過程と諸問題の考察」(地域政策学会発表と論文)
「群馬県における地方路線バスの盛衰と諸問題に関する考察」(日本交通学会発表)
- ・長野県北信地方の歴史遺産(松代、小布施)など見学(9月21～22日、白馬セミナーハウスに宿泊)
- ・吾妻郡西部の鉄道と鉱山遺跡などを見学(11月7日)

[Ⅱ]外部からの委嘱された社会活動業務

- ・前橋市全市域デマンド化研究会委員(2012年5月18日発足、副代表)
第7回研究会議(8月19日)
前橋市公共交通マスタープラン計画推進調整会議(8月27日)
前橋一揆東・吉岡バス路線(3市町村共同委託バス路線)の再編に向けた協議
- ・群馬県タクシー準特定地域協議会会長(特定地域に指定された2009年10月協議会発足)
2014年1月準特定地域に移行(同時に協議会の会長、同年3月5日協議会開催)
2014年度を通して群馬運輸支局やハイヤー協会との制度や活性化に関わる協議
- ・群馬県立歴史博物館外部検討委員会委員(2014年11月～15年3月、近現代担当)
(現在の同館の休館・全面改修に際して、展示方法や展示物を多角的に検討する委員会)
全体検討会：館の展示全体に関わる検討や部会相互の調整(11月18日・3月17日)
個別検討会(近現代):具体的展示物検討(12月19日・1月26日・2月20日・3月14日)

[Ⅲ]震災後の東北地方海岸沿いの交通事情の調査

東日本大震災から4年が経過した。継続的に可能な限り、個人的にフィールド調査(路線バスや震災復興支援バスなどに乗車した調査を含む)を継続してきた。具体的成果報告の執筆には至らなかったが、各所の交通事情を見聞し、資料収集などを行った。震災復興と研究課題の糸口は多岐に亘るが、来年度に調査記録をまとめたいと考えている。

関連フィールド調査:

- ・6月27日:大槌町内の路線バスと復興事情の視察(役場職員に案内、上記Ⅰ-[Ⅱ]と共用)
- ・1月30日:福島・宮城県海岸沿の路線バス運行と常磐線復興事情の調査(山元・亘理町等)